

知って納得  
最新業界コラム  
The newest industry column.  
Biomass



Image photo

地球生まれ、地球育ち、  
最後は地球に還るバイオマス。

バイオマスとは、動植物からできる生物資源のことを言います。生きているものからエネルギーや資源を取り出し、エネルギーや資源を使ったあとにも有害な物質を残さない。そんな環境に良いエネルギー資源が、バイオマスです。

バイオマスが具体的にどんなふうに使われているかというと、例えば発電です。このバイオマス発電に使われている材料には、いろいろなものがあります。例えばお米を刈ったあとに出る稲わらや、もみ殻。牛や豚など家畜業を行っているところから出る、ふん。建築業や木材業、製材業などから出る、廃材など。

使わなかった自然の残り物を、燃やしたり、発酵させたりして発電を行っているのです。

また発電以外にも、日常製品にバイオマスが使われることがあります。ガソリン代わりのバイオマス燃料、プラスチックやコンクリート、再生紙などにもバイオマスを利用した製品が開発されています。

中でも注目したいのが、微生物によって分解されるという「生分解性」のあるバイオマス製品です。

燃やしたり、特殊な処理を行ったりしなくても、「微生物」という自然の力で水と炭酸ガスに分解されるため、処理に手間がかからず地球にも優しい製品です。

この生分解性を利用したバイオマス製品は、食器やカトラリー、レジ袋など、今までプラスチック素材に頼ることが多かった製品を中心に開発されています。変わったところでは、男性の衣服、スーツに生分解



性を取り入れた商品もあります。「土に埋めると分解するスーツ」なんて、発想が面白いですね。また実際に、大きな効果をあげている生分解性の製品に農業用マルチがあります。

マルチというのは畑の土にかぶせるシートのことです。

今まで農業用マルチは一度きりの使い捨て製品を使用するのが一般的でした。またマルチの回収にはとても手間がかかり、農業ゴミとして捨てられる量も多い資材でした。しかし、このマルチに「生分解性」を取り入れることで、シートの回収にかかる手間を省くことが可能になり、農業に従事する方の負担を減らし、かつゴミの量を削減することも可能になったのです。

自然から生まれ、自然とともに働き、寿命を終えたら最後は自然に還る。そんな地球にやさしく、人にもやさしいエネルギー資源がバイオマスです。

いろいろなところで、是非活用してみたいですね。



次号は「寺内町 Classic」と「うつわと暮らしの蔵 日和」を紹介します。お楽しみに!

整体とアロマ、古民家と店名の「ヤングハート」。この意外な組み合わせのお店は、笠松さんご夫妻で運営されており、ご主人が整体で身体を癒し、奥様が心の癒し空間を担当されています。

この場所を拠点にされたのは、たまたま寺内町を訪れた際に古民家に貼られた「借家」の文字にピンときた「奥様のひらめき」だそうです!

ご主人の笠松さんは、会社務めをしている中で、「老人介護」を天職と気づき「ヘルパー」を経て「整体師」に転職という異色の経歴の持ち主。奥様はエステのお仕事をを経て、人の心に寄り添うサポートがしたいとオーラソーマを学びアロマトリートメントやオーラソーマリーディング等を行っています。

お二人の手柄が癒しの空間を作り出されていて、落ち着いた町屋独特の静けさとゆったりとした居心地の良い雰囲気、知らず知らずの内に穏やかな気分になっていました。

こんな空間の中で心も身体もほぐすことができれば・・・元気になること間違いなしですよ! お勧めのスポットです。

今後は、整体やアロマに限らず、みんながハッピーになる企画も検討していきたいとのこと・・・ワクワクしますね!



Vol.02 整体アロマのヤングハート  
住所：富田林市富田林町 23-3  
電話：0721-25-7037  
営業時間：9：00～18：00(受付可)  
日曜日は14：00まで(受付可)  
定休日：毎週月曜日・祭日  
<http://ameblo.jp/ka-7002/>

Vol.03 陶工房 飛鳥  
住所：富田林市富田林町16-19  
電話：0721-23-5523  
営業時間：毎月1日～15日の  
11：00～17：00  
定休日：毎月16日から月末と毎週日曜日  
<http://tokobo-asuka.com/>

「角」が大好きと話される阪本さんが営まれる「陶工房 飛鳥」には、こだわりの四角ものたちをはじめ、使いやすいさに配慮された手に馴染みややすい器などが、地元の方から譲っていただいた長持やタンスと共にセンス良く並んでいます。

店内は、中庭から明るい日差しが注がれていて、とてもいい雰囲気!

この場所でお店をはじめられたきっかけは、行きつけの本屋の店主のご紹介だとか。

いろんな方々とのご縁に恵まれて・・・と話される店主の阪本さんでしたが、きっとお人柄が紡いだ縁なのでしょうね。

趣味で教室に通い始めて二十数年。美しく洗練されたものより、自然の一部を基礎とした物づくりにこだわり、自分の思い描く焼き物に近づくよう日々努力を続けてこられ、今、ここ寺内町に「陶工房 飛鳥」があります。

月の半分は、制作活動に集中するため、お店は1日から15日の間しかオープンされていませんが、それも、阪本さんの手づくりに対する熱い思いから来るもの。時間を見つけてのぞいてみてください。優しい器たちと阪本さんの笑顔があなたを迎えてくれますよ!

秋には恒例の「方展」と題した作品展も予定されているそうです。ご期待ください。

DATA

DATA